

経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県芦屋市 芦屋病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	ド訓	救臨輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
94,007	17,045	非該当	非該当	7：1

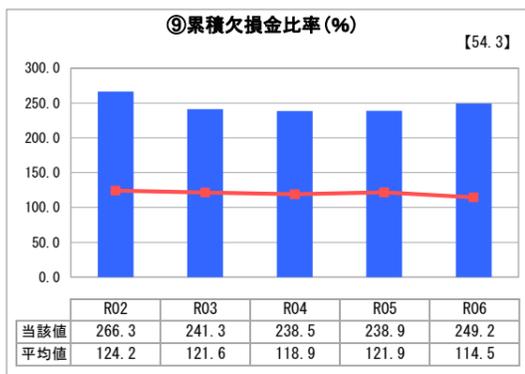
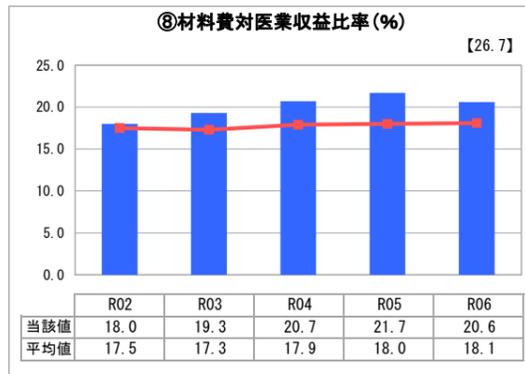
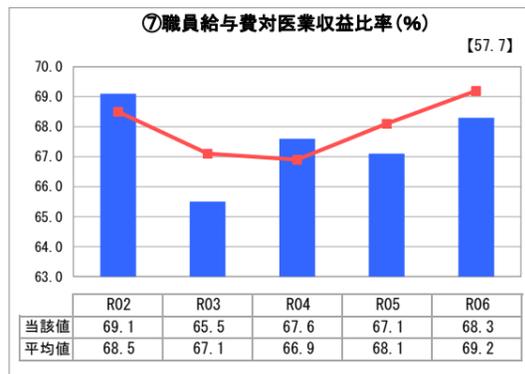
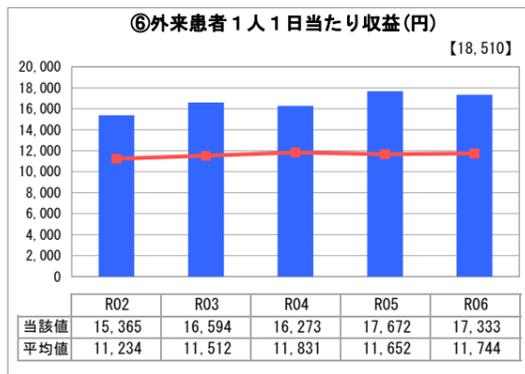
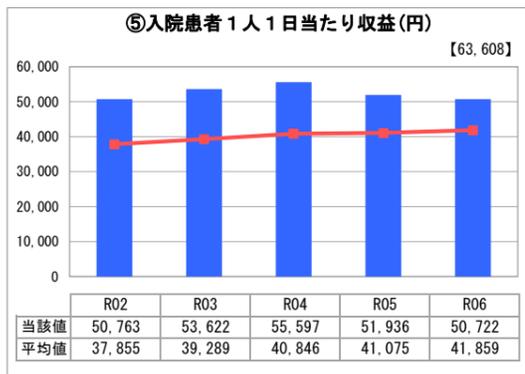
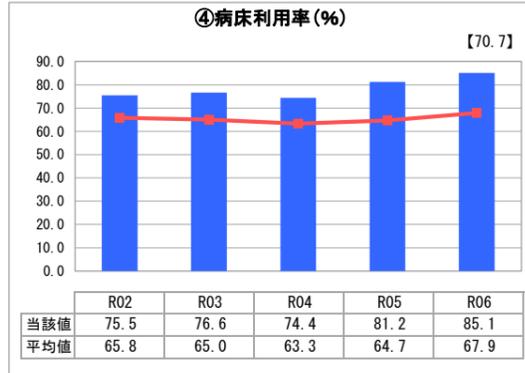
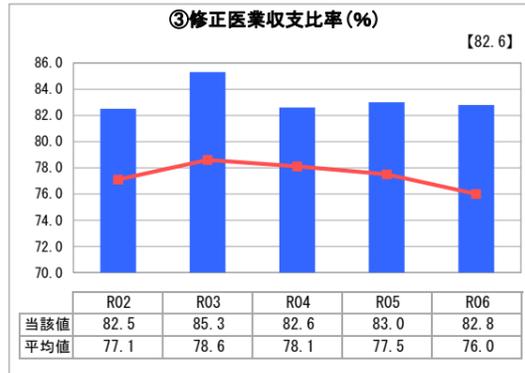
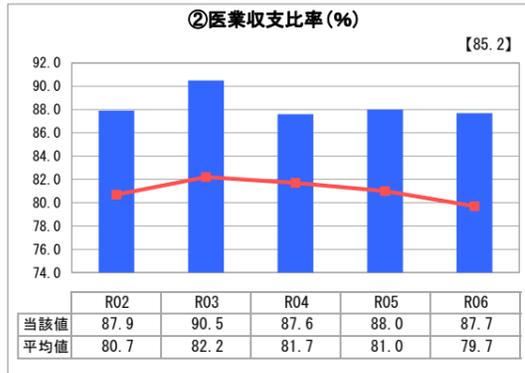
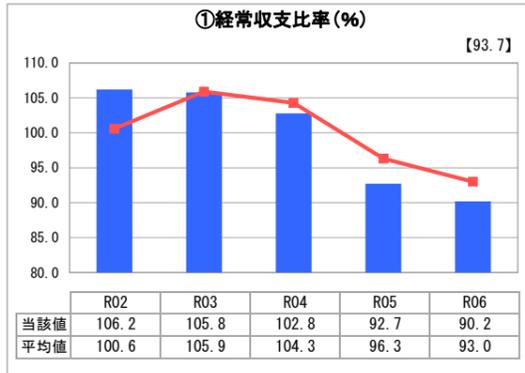
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

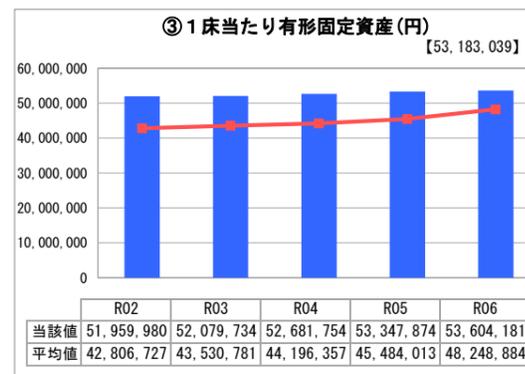
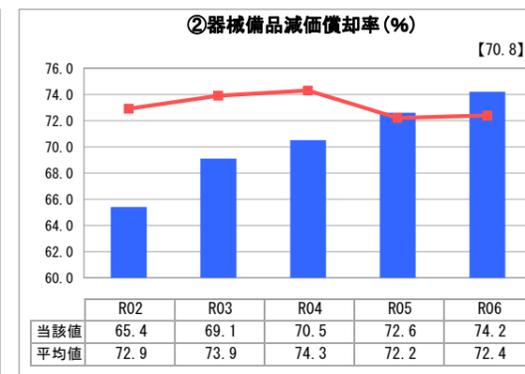
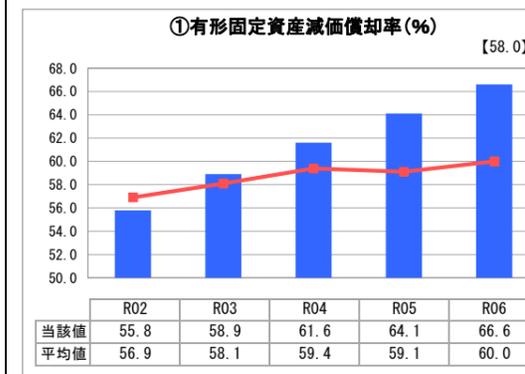
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
199	-	199

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は市民の健康保持に必要な医療を提供する市の中核医療機関として、地域の診療所等との役割分担と連携により、救急医療を含め診療体制の充実を図っている。
がん診療への取組（緩和ケア含む）、認知症合併患者への対応、心不全患者への対応、各種検診の推進に努めている。さらに、地域の後方支援病院として在宅患者急変時の受入医療機関としての役割を果たしており、療養後は住み慣れた自宅へ早期に復帰できるように在宅復帰支援への取組にも注力している。また、市内唯一の小児入院医療機関として診療を行うほか、地域の感染症対策を担う基幹病院として市内医療機関等に協力している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度は、前年度と比較し入院患者数の増加により入院収益や室料差額収益は増加したものの、新型コロナウイルス感染症関連補助金の交付が終了したことにより営業外収益が大幅に減少しました。総費用においては、給料のベースアップ等による給与費の増加、労務単価の上昇等による委託料の増加により、結果的に収支は622,310千円の純損失となりました。

累積欠損金比率については依然として高い比率であり、継続的な収支改善の取組を実践することで、当該比率の減少を図ってまいります。

2. 老朽化の状況について

平成24年度の新病棟の改築工事から12年が経過し、有形固定資産減価償却率、機械備品減価償却率は増加傾向にあるものの、類似病院との比較において、著しく老朽化が進んでいる状況ではないと考えています。今後も当院の機能、必要性等十分に検討・協議し、計画的に更新を行ってまいります。

全体総括

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、通常の医療提供体制へ戻った1年間でしたが、診療報酬改定やコロナ禍における患者の受療行動の変容等による患者数の減少、医業費用においては給料のベースアップによる人件費の増加や経費、材料費等の大幅な物価高騰により非常に厳しい経営状況となりました。

他方、次なる新興感染症に迅速に対応可能な体制を整えるため、改正感染症法に基づき兵庫県と「協定指定医療機関」の協定を締結しました。

引き続き市民の生命と健康を守る芦屋市の中核病院として役割・機能が十分に発揮できるよう経営改善、経営強化を図ってまいります。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。